

# 成美放課後児童クラブの聖戦!

## 学童を第2の家として安心してゆっくり休める安全な場所に



すし詰め状態の子どもたち(2020年3月撮影)



廊下側に窓のない新学童施設

同クラブは平成30年から、現在使用中の施設が狭く児童たちが室内にすし詰め状態で、安心安全に保育できる状態ではないと、人数に相当する新たな2支援分(子ども72人分)の施設確保を要望してきた。昨年9月に完成した施設は狭小で1支援分の広さしかない施設。市教委は、2支援分のスペースは確保できると主張し、早々にこの新施設に移るよう求めた。ところが今年5月になって、当初からスペース上で1支援と認め、2支援のスペースを要望してきた。

成美放課後児童クラブ

6月6日、津市議会第2回定例会で、八丈正年議員(自由民主党市議団)が「新しく作られた学童施設は機能が充実していない。トイレも手洗い場もない」とこの問題を取り上げた。森昌彦教育長は「信頼関係を築けなかった市教委の不誠実な対応が『番の原因』と反省の答弁をした。

# 新施設を巡りずさんな対応

## 人権無視した市教委の指導

近鉄久居駅前にある津市立成美小学校放課後児童クラブの「耐震性が確保された施設の新築・整備。スペースの拡充」などの要望に対し、4年間もの津市教育委員会の不誠実な対応が混雑をまねいている。前葉幸幸市長が3選時に約束した「放課後児童クラブの整備など、子どもたちのための政策を1丁目1番地に据える」との抱負はどうなったのか。

た保護者を落胆させている。4年にも及ぶスペース拡充の要望は進んでいない。児童の生活の場としての学童施設は、平成13年に校庭にプレハブで建てられた公民館の学童施設。現在1〜3人の児童が利用している。働き方改革で共働き世帯が増え、在籍する子どもが増加。「現行の施設では狭小で子どもたちの安心安全を確保できない」と、平成30年から耐震性の確保も含め施設の新築・整備などを要望してきた。

市教委は学校施設で学童施設として活用できる場所の検討を決定。紆余曲折の末、令和2年、市教委は学校校舎内のひだまりルーム(多目的ルーム)を改修して、使うことを決めた。

同クラブはこの決定を説明したのは、改修方針が決まった同年の12月。市教委が示した図面を見て、要望と喚声を繰り返してきた2支援分(子ども72人分)のスペースには足りない事、トイレや手洗い場など学童に必要な設備がないこと、その他管理上問題などを提起したが、市教委は「学童は認可制の為、要望には応えられない」と問題未解決のまま、目的の学童施設を校舎内多目的ルーム作ると広報報で発表。利用する保護者からの心配と混乱を招く結果となった。

改善策が示されない中、3年7月から工事は始まり、9月に新しい学童施設が完成した。完成当初より市教委は「2支援分のスペースは確保できる施設」と主張し、森昌彦教育長は「児童72人で利用すると人当たり1・55㎡で、津市条例の規定、児童人おおむね1・65㎡以上にあたる」として、

問題はないと適当に回答している。

◎「早期に移動を」と圧力!!  
多々の問題に同クラブが戸惑いを見せる中、「新施設へ早急に移動せよ」等の圧力が加わった。3月31日には書面での移動を強要された。

市教委の横柄な態度や毎回異なる対応等の対策に令和3年から、同クラブではいかなる時も市教委に電話の録音を求めた。「電話の録音の時、説明の時必ず録音の確認をし、その時の話し合いに対しては必ず録音請求もして、同時に録音ボタンを押しているのに内容が音機には残っていない内容が市教委の録音機には残っていないという事が多々発生。開示請求を求めたが「不存在」と回答された。話しの内容が編集されている」ともあった。

市教委の圧力、保護者への対応等が続き、精神的な負担で体調を壊したり、やめてしまおう支援員も出た。市教委の対応に対し内部統制室にも訴えたが、回答は無い。

同クラブは、八丈議員に事の顛末を相談すると、行政は動きを変えた。3月31日までに現状回復の上ミーティングルームを明け渡しを促した文書の撤回文章が来た。

◎補助金上の2支援  
5月20日に市役所議会棟で行なわれた八丈議員、森教育長と同クラブ運営委員会委員の鈴木安雄会長らの話の中で、森教育長は「当初からスペース上では2支援とは考えていなかった。あくまで補助金上の2支援だった」と認める発言をした。そのあと、30日に行われた話し合いでも認めている。これまでも認められている。これまで3支援の学童スペース確保のために頑張ってきた同クラブの運営委員会副会長の川上昭子支援員は「新施設が1支援分のスペースしかない、従来の施設で2支援分の子どもを受け入れるしかない。4年間何のために耐えてきたのか」と落胆を隠せない。

要望してきた広い施設は難しいと判断し、従来の施設と仮とされるミーティングルームを保護者らで改修しスペースを広げた。改修時、市が設置したロッカーなどの移動を願っていた市教委から「撤去はできない。ただし3月31日までに新施設に移るなら許可する」と、パワハラととれる一方的な発言で連絡が入った。

◎早くに説明と謝罪を個別対応が必要など  
もちもいる。新しい施設にはスペースが無く、市教委は「新施設とトイレの間にある共有部分(いわゆる廊下・窓無・冷暖房無・すぐ下駄箱のあるスペース)にパターシシで区切り対応して欲しい」と人権を無視するような対応を求めている。同クラブは「我々はただ預かっているのではないんです。こは人を育てる場だとスタッフ皆が思っていて活動しています。時代のニーズに合わせてあげないと学童としての値打ちもないです。地域のみならず育てた子は地域を大切に思うでしょう、いずれ自分も地域のために動いてくれるようになるでしょう。私たちは学童を通して、人を育てているんです。だから加減なことではない」と話す。

このような環境でも新施設に移るにはさらに保護者から450万円程のお金を支払わなければならない。同クラブは新施設に移らず現行のまま施設を運営するしかないという。「保護者の前で早急に2支援分の施設を用意すると言いつつ、このことの意味も説明と支援員を追い込んだ謝罪を」と同クラブは市教委に求めている。

同施設の問題を繰り返した職員たちは学校長や部長として栄転。同クラブは問題を改善されないまま運営を続けている。

■放課後児童クラブ「児童福祉法に基づいている」「放課後児童健全育成事業」。1単位は児童40人以下、放課後児童クラブ支援員(保育士または幼稚園教諭の資格者)1名と、補助員1名の2人以上が必要。専用区画の面積は児童1人当たり1・65㎡以上。

「早期に移動を」と圧力!!  
多々の問題に同クラブが戸惑いを見せる中、「新施設へ早急に移動せよ」等の圧力が加わった。3月31日には書面での移動を強要された。

市教委の横柄な態度や毎回異なる対応等の対策に令和3年から、同クラブではいかなる時も市教委に電話の録音を求めた。「電話の録音の時、説明の時必ず録音の確認をし、その時の話し合いに対しては必ず録音請求もして、同時に録音ボタンを押しているのに内容が音機には残っていない内容が市教委の録音機には残っていないという事が多々発生。開示請求を求めたが「不存在」と回答された。話しの内容が編集されている」ともあった。

市教委の圧力、保護者への対応等が続き、精神的な負担で体調を壊したり、やめてしまおう支援員も出た。市教委の対応に対し内部統制室にも訴えたが、回答は無い。

同クラブは、八丈議員に事の顛末を相談すると、行政は動きを変えた。3月31日までに現状回復の上ミーティングルームを明け渡しを促した文書の撤回文章が来た。

◎補助金上の2支援  
5月20日に市役所議会棟で行なわれた八丈議員、森教育長と同クラブ運営委員会委員の鈴木安雄会長らの話の中で、森教育長は「当初からスペース上では2支援とは考えていなかった。あくまで補助金上の2支援だった」と認める発言をした。そのあと、30日に行われた話し合いでも認めている。これまでも認められている。これまで3支援の学童スペース確保のために頑張ってきた同クラブの運営委員会副会長の川上昭子支援員は「新施設が1支援分のスペースしかない、従来の施設で2支援分の子どもを受け入れるしかない。4年間何のために耐えてきたのか」と落胆を隠せない。

要望してきた広い施設は難しいと判断し、従来の施設と仮とされるミーティングルームを保護者らで改修しスペースを広げた。改修時、市が設置したロッカーなどの移動を願っていた市教委から「撤去はできない。ただし3月31日までに新施設に移るなら許可する」と、パワハラととれる一方的な発言で連絡が入った。

このような環境でも新施設に移るにはさらに保護者から450万円程のお金を支払わなければならない。同クラブは新施設に移らず現行のまま施設を運営するしかないという。「保護者の前で早急に2支援分の施設を用意すると言いつつ、このことの意味も説明と支援員を追い込んだ謝罪を」と同クラブは市教委に求めている。

同施設の問題を繰り返した職員たちは学校長や部長として栄転。同クラブは問題を改善されないまま運営を続けている。

# 下津醤油第28回「感謝祭」!!

## 新発売「よろこびセット」人気



下津醤油(下津浩嗣社長)は6月26日(日)と27日(月)の2日間、津市身田町の本社工場前で「第28回感謝祭」を開いた。多くの市民が

お中元の季節を迎え、「三重こだわりセット」通常2468円が1970円、「食卓応援プレミアムギフト」通常3240円が2500円、「よめ

1ナも全て30%引き。身近なもの値上がりが続くとあって、訪れた人たちは両手に持つ買い物袋がいっぱいになるほど買い求めていた。

直売所では老舗の味の特製だれ「利兵衛だれ」1本1100円、日曜日限定のヨメだれ2本3000円が人気を集め、行列ができた。直売所前には3台のキッチンカーが自慢の味を売り込んでいた。あられの野田米菓、オリジナルの挽き売りの富士珈琲、赤塚植物園、マルキ水産が協賛出店した。問い合わせは下津醤油



発行所 三重タイムズ社  
本社 津市丸の内18-15  
TEL.059-223-1230 FAX.059-223-1222  
http://www.mietimes.co.jp/  
©三重タイムズ社

介護ですり  
専門業者

野瀬建築  
☎0120(34)1829  
津市高茶屋七丁目6番36号